

平成22年度第1回 東三河ふるさと公園観察会記録

1. 事業名	東三河ふるさと公園 第37回自然観察会
2. 日時	平成22年4月18日(日) 晴れ 09:30~11:50
3. 場所	東三河ふるさと公園 豊川市御油町
4. 参加者数	指導員18名、一般参加者37名 計55名
5. 観察のコンセプト	<p>・「春の訪れを感じよう」</p> <p>桜の季節も終わり、周辺の山々の緑が一段と濃く、その色彩も種々である。色と人間との関わりについて春に咲く花を観察しながら感じてもらう。また五感で春を感じようという観察を行った。</p>
6. 確認できた野鳥類	<p>コマドリとオオルリの鳴き声、メジロ、シジュウカラ、コゲラ、トビ、ハシブトカラス、カワラヒワ、ヒヨドリ、セグロセキレイ、ハクセキレイ、ムクドリ、ホオジロ、ウグイス、カルガモ</p>
7. 植物の不思議	<p>1) スズメノテッポウとセトガヤ (イネ科 スズメノテッポウ属)</p> <p>スズメノテッポウは史前帰化植物で、田圃の雑草として普通に見られますが、これによく似た草にセトガヤも見かけます。両者を比較しないと区別が困難である。でも一度覚えてしまえばその後見間違えることはないであろう。スズメノテッポウは全国の田圃や湿った平地に群れをなし生える2年草、和名は小型で円柱状の花穂をスズメが使用する鉄砲にみたてたもの。別名スズメノマクラともいわれるが、こちらの方がより納得できるのだが。セトガヤはスズメノテッポウの生育地より湿った所に生える。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: flex-start;"> <div style="text-align: center;">  <p>薬は黄色 花が小さく密生している。</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>薬は白色 花が大きく、荒い感じである。</p> </div> </div>

2) スミレの概略的見分け方

- (1) 地上部に茎がある（有茎種 例 矢ツボスミ）か、無い（無茎種 例 ツボスミ、マキノスミ）かにより区分する。
- (2) 葉の裏の色と葉柄に翼があるかないかにより区分する。（マキノスミは葉の裏が紫色）
- (3) 托葉があるかないかで区分する。



葉の表の例



葉の裏の色の例



たく葉の例



マキノスミレ

3) スミレについて

植物等の名称で、総称を表す名前が、そのまま種の名前となっている例は少なく、スミレもスミレの仲間の総称である名称が、種の名前となっている珍しい例です。

種子の発芽状況により、ときどき観察場所のように、大きな群落を形成することがある。葉柄に見られる翼で区別できる。



(スミレの仲間は花期を終えると立ちあがり、姿が変化する種もある。)

8. ヤマアカガエルとアズマヒキガエルについて

事務所前の水路にヤマアカガエルとアズマヒキガエルのオタマジャクシが見られる。

アズマヒキガエルは黒色で、早く成長し、変態を行い、小さい蛙となり陸上に上がり山の中に入る。ヤマアカガエルはゆっくり成長する。

ヤマアカガエルは1月下旬から2月下旬にかけて産卵し1匹で300こ位の産卵を行う。アズマヒキガエルは2月下旬～3月中旬にかけて産卵し、その数は1000から1500個で、生き残る率は低い。

(ヒキガエルの仲間：アズマヒキガエル（東日本）、ニホンヒキガエル（西日本）、ナガレヒキガエル（紀伊半島の山地）)


























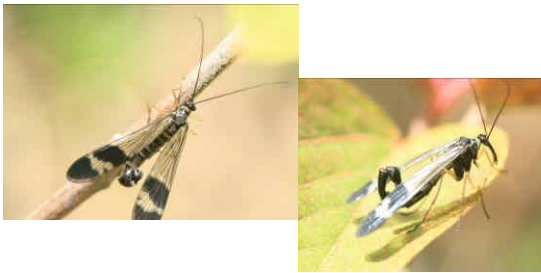



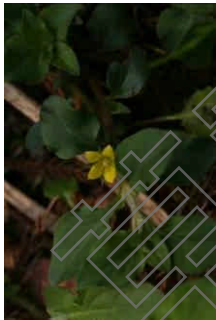
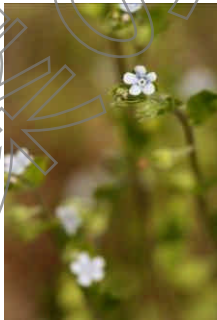




9. その他の観察事項

1) 森の定期観察

- 2) 鳥類の顔の各部の名称を覚え、観察時に役立てよう
- 3) イタドリは食感が（シウサンが酸っぱい食感を引き起こす。）
- 4) サンショの仲間（サンショとイヌザンショの見分けかた、カラスザンショは最近増加している。）
- 5) ロックガーデンに植栽されている個体はセイヨウシヤクナゲで元々は東洋のヒマラヤに自生する個体を西洋に持ち込み品種改良したものである。ツクシシヤクナゲは花卉が7裂する。
ロックガーデンには本来東三河に「自生する「ホソバシヤクナゲ」を植栽されるべきである。

10、観察写真

				
アリアケスマレ	スマレ	ヒメスミ	タチツボスマレ	
				
ニオイチツボスマレ	マミノスマレ	フモトスマレ	シノイスマレ?	イカリソウ
				
ウラジロ	クサイチゴ	ケキツネノボタン	コバノガマズミ	ミツバツツジ
				
サルトリイバラ	ニガイチゴ	ミツマタ	ヤマモモ♂花	レンゲ
				
スズメノテッポウ	セトガヤ		コナラ	セイヨウカラシナ

				
セキショ	なずなのなかま??	オオジシバリ	シャガ	ヒメドリコソウ
				
シリアゲムシ	オタマジャクシ2種		ガガンボの仲間	
				
ムラサキサギゴケ	コナス	ハナイバナ	オヘビイチゴ	オオマツバウンラン
観察会風景				
				
水路でオタマジャクシの観察	森を見てみよう		スマイレ類の見分けかた	



メジロの観察



田圃の観察



まとめの風景

備 考

- 1) 本日の観察会は、ロックガーデンまでは、それぞれの観察事項をまとめ実施、時間が不足してきたため経路を変更し管理棟まで降りる。この時、疲労も加わり長蛇の列となりバラけたが、無理にまとめずに帰路についた。往路で要点のみ観察し、帰路は自由に下山してもらうのも一つの手法]かもしれない。

観察会のまとめ